

新宮山彦ぐるーぷ第2349回

浦向道の点検・整備

◇実施日 2月9日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、阪口雄二、上村和美、須崎由香、

山川自知、梶野照雄、藤原裕一郎、村吉光夫、家郷亮

介 10名

毎年春の巡視は浦向道の点検が始まる。昨年、一昨年も2月の第2週目に実施したが、積雪は殆どなくバイクオウレンも咲いていた。今年は久しぶりに多くの積雪があり新雪を踏んでの山行になった。午前7時半、川上村の道の駅で藤原君と村吉さんに落ちあう。



川上村の道の駅で

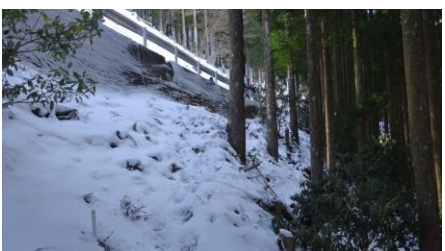
役場駐車場も白くなっていた

浦向登山口

道の駅の路面にはうつつすらと雪が残っていた。ノーマルタイヤの藤

原君を乗せ下北山村へ向かった。新伯母峰トンネル付近は圧接路になつている箇所もあったが、南に行くほど積雪が増え、前鬼橋を越え崩落現場の仮橋も白くなつていた。

午前9時、下北山村役場駐車場に着く。役場駐車場にも少し雪が残っていた。今日は家郷地域振興課長も参加された。沖崎車と村吉車の2台で行仙宿の登山口に向かう。R425の浦向ゲートに着くとゲートが開いている。すぐ先で法面のネット工事が行われていた。お昼ごろまでは通行できないというので、どうするか話し合つた結果、沖崎、村吉の2名を残し残りの8人で浦向から登って四ノ川林道へ出て補給路登山口まで歩くことになった。例年は行仙宿から浦向迄下りで点検していたので、今回初めて浦向から登ることになる。四ノ川林道から行仙宿までの浦向道は10年ほど前に登つたことがある。



斜木を切除

四ノ川林道に着く

午前9時40分、浦向の登山口を出発。積雪は5cm位で、歩くの

に支障はない。村吉さんは十津川橋の掃除をする、とスコップを携えてこられた。10分ほど歩いて沖崎さんは国道に戻った。途中で斜木を一本切除し、沢越えの廃屋のある場所で休憩。この先の登りは徐々に積雪が深くなり、少し時間がかかった。



と村吉車が登ってきた。トラブルがあったという。沖崎さんの車がスリップして前後輪を側溝に落としたので、脱出に使えるような材料を登山口で集めてくるという。3人が乗り込んで登山口に向かい板や丸太などを積み込んで事故現場に向かった。

補給路登山口着

シートの除雪

階段も雪の中

R425方向

車引き揚げ中

本日の参加者

午前11時45分、四ノ川林道に着く。昼食を摂ろうと思ったが、皆さんが補給路登山口まで行こうというので、登山口を目指した。林道の積雪は深く場所によっては30cm近くあり、歩くのに体力を消耗した。上村さんが「スノーシューを持ってきたらよかった」と言うが全くその通りで、スノーシューかスキーを使えば楽できたと思う。40分ほどで補給路登山口に着いた。モノレールの屋根シートには30cm位の雪が積もり、階段も水場のシンクも雪に覆われている。これだけ雪が積もったのは2018年以來の事だ。昼食を済ませ国道に向けて歩き出す。車が上がりつけないことも考えられるので、国道を歩いて降りることも想定していたが、10分ほど歩く

現場はカナウナギトンネルの少し下で、道幅が広くなっている場所だ。右側の前後輪が側溝に落ちて停まっていた。後輪のフレームが側溝の縁に付いているので、何とか持ち上げようとジャッキを入れてみるが、パンタグラフジャッキなのでうまく上がらない。児嶋さんの提案で前進して前のタイヤの脱出を試みる。岩や板でタイヤの前方に路面の高さまでのスロープを作りゆっくりと前進した。四駆なので何とか脱出成功。前輪が上がったので法面との間隔が広くなり後輪へのアクセスもできるようになった。後輪も同じようにスロープを作って脱出を試みるがスリップして上がらないので6人後ろから押した。こうして前後輪ともに路面に復帰し一件落着いた。

役場駐車場に戻って解散。朝残っていた雪は殆どが溶けていた。

(記；梶野)

行動タイム

09：00 下北山村役場駐車場↓09：13 浦向ゲート↓09：40 浦向登山口↓10：47 廃屋↓11：45 四ノ川林道↓12：25 補給路登山口 12：55→13：25 事故現場 14：15→14：35 下北山村役場駐車場